

学生の理解を促す講義法 —伝わる話し方の技術—

愛媛大学教育・学生支援機構

教育企画室

上月翔太

講師紹介

- 広島県広島市出身
- 専門は高等教育論、文芸学（西洋古典叙事詩）
- 『大学職員の能力開発』 『大学教育と学生支援』（玉川大学出版部、分担執筆）、『西洋古代の地震』（京都大学学術出版会、共訳）
- YouTube :
https://youtube.com/playlist?list=PL-vRgl2rJ8LWRHtjmFuCWjS_D3D4ao_SL
- note : <https://note.com/kokozukizuki/>

目標と構成

- 目標

講義における話し方について具体的かつ実践可能な改善点を見出すことができる

- 構成

オンライン授業の環境整備

講義法の基本

伝わる話し方の技能

オンライン授業の 環境整備

オンライン授業の特徴

- 視覚と聴覚のみで情報を受け取る
- 基本的に学生は一人だけで受講する
- 受講環境は学生によってさまざま
- 通信の不具合はつきもの

聞き取りにくさの原因

- 機器（PCやマイク）
- 配信環境の問題
 - 教員自身やPC周りからの雑音（特に咳払い）
 - 周囲の音環境
 - 部屋鳴り
- 教員の話し方
- 通信状況
- 学生の受講環境

環境整備を行う

- 安定的な通信環境
- 外づけマイクの利用
- (PC内蔵マイクの場合) マイク位置の確認
- 静穏な環境
- 部屋鳴りの抑制
 - 壁から離れる
 - リフレクションフィルターを利用する
- 予行練習
 - 録画する
 - TAに相手になってもらう

学生に環境整備を促す

- 推奨的な受講環境を示す
 - 通信環境
 - 音環境
 - ヘッドホンなどの機器の利用
- 受講時の状況を確認する
 - オーディオの設定（オンオフや音量）
- 受講環境についてヒアリングする
 - 「聞こえにくいところがありましたか」
 - 「音声に不具合がありましたか」

講義法の基本

授業設計の重要性

- オンライン授業では授業設計が一層重要
反応を探りながらの授業ができない
授業全体の構成、個々の学習活動の構成、難しい概念
の説明方法など想定する
- 導入・展開・まとめの基本構造
導入（前回の復習、目標提示、問いの提示）
展開（説明、発問、指示）
まとめ（要点の確認、次回予告）
- 15分単位の設計
- 授業の構造を学生に伝える工夫
口頭、スライド、配付資料での提示

授業の構造を示す

- 方向指示：授業冒頭に方向性を示す
「今日の授業ではまず〇〇について話をします。その後、△△について扱い、事例を基に議論を行います」
- 構造化：授業中の話題の転換を示す
「ここまで〇〇について学習してきました。これから△△について学んでいきましょう」
- 強調：重要な点に向けて注意を促す
「これから説明することは最も重要な点です」
- 関連づけ：他の内容との関係を示す
「今の内容は前回学習した□□と関連しています」

理解を促す説明の基本

- 学生の関心を高める
- 説明の構成を伝える
- 繰り返し説明する
- 比喻や置き換えを活用する
- 学生の知識や経験に関連づける
- 教員自身の具体的な経験を話す

(中井・小林編 2017)

口頭説明と教材

- 学生に必要な情報が全て伝わっているか？
- 口頭説明と他の教材が補完し合うようにする
 - 口頭と教材のセットによる「理解を促す説明」の実践
 - 漢字や外国語のつづりの提示
 - 図版や表、写真の積極的活用
 - (オンライン) チャットやホワイトボード機能の活用
- 口頭説明と教材の対応を明確に示す
 - 指示語(「ここ」「そこ」)を多用しない
 - 教材のどこを見ればよいかを明確に示す
 - ナンバリングやキャプションをつける

スライドの移行

- 説明を言い切ってから移行する
- 移行前に「次に行きます」と一声かける
- 次のスライドを予告してから移行する
- 問いかけをしてから移行する

伝わる話し方の技能

伝わる話し方の指針

- 口を動かす
- 口癖をなくす
- 適切な音量で話す
- 速度を調整する
- 重要部分を強調する

(佐藤編 2017)

伝わるためには準備から

- 大事な説明については「何を話すか」を明確にしておく
- 文章化しておければなおよい
- 話すべき文章をイメージできるスライドになっているか
- 複雑で長い文章はできる限り避ける（教材で補う）
- 声に出して練習する

明瞭な発音

- 息を吐くタイミングと口の形をつくるタイミングを合わせる
- それぞれの発音における口の形の違いを意識する
 - 「やまだながまさ」（子音の違いに注意する）
 - 「おにいさん」「おねえさん」（「い」と「え」の違いに注意する）
- 伸ばす音と跳ねる音はやや大きさに発音する
 - 「覇気」と「発揮」（「っっっ」という意識）

適切な間

- 適切な間は学生の思考を整理させ、促す
発問のあとは間を十分につくる
説明が一区切りついたら間をつくる
- 間を工夫すると文意を示したり、大事な点を強調したりできる
- 「えー」「まあ」が多いとノイズになる
多いと思ったらまずはゆっくり話す
出てきそうになったら飲み込んで間をつくる
沈黙を恐れない
- 口癖はオンライン授業では情報伝達を妨げる可能性がある

話す速さ

- 1分間に300～400文字＝10秒で50～70文字程度
「きょうは、「がくせいのかいをうながすはなしかた・ききとりやすいこうぎほう」へのごさんか、ありがとうございます」（50文字）
- ずっと等速では単調に過ぎることもある
- 説明の内容に応じて緩急をはっきりつける
- オンラインの講義ではゆっくり話すほうが伝わりやすい

文意に応じた抑揚

- 文の構造を意識する

主部 / 述部

修飾 / 被修飾

文同士の論理的関係 など

- 文意に応じて抑揚をつける

高めにはじまり落ち着いて終える（文末は明瞭に）

接続部は強調する

助詞（「てにをは」「～ます」等）は強くしない

まとめと質疑応答

目標と構成

- 目標

講義における話し方について具体的かつ実践可能な改善点を見出すことができる

- 構成

オンライン授業の環境整備

講義法の基本

伝わる話し方の技能

参考文献一覧

佐藤浩章編（2017）『講義法（シリーズ大学の教授法2）』玉川大学出版部

篠原さなえ（2018）『日本人の声がよくなる「舌力」のつくり方 声のプロが教える正しい「舌の強化法」』講談社

中井俊樹、小林忠資編（2017）『授業方法の基礎（看護教育実践シリーズ3）』医学書院

福島英（2019）『ヴォイストレーニング大全—「声」を仕事にする人のための実践と知識の本』リットーミュージック

渡辺知明（2012）『朗読の教科書 豊かな日本語表現の技術』パンローリング

関連動画

【FD動画】授業における話し方の技能 <https://youtu.be/DDiM5GiMEZY>

【FD動画】授業における発声のコツ <https://youtu.be/0gc4mJnHdbo>

note 「「遠隔授業と講義法」関連まとめ

<https://note.com/kokozukizuki/n/n6f4df92d074b>